Okayama University of Science

岡山理科大学

産学官金連携情報

リエゾン Vol.14

LIAISON

タルボサウルス頭骨（恐竜学博物館提供）

INDEX

巻頭	学長あいさつ
P1	大学の概要
	研究・社会連携部
P2～3	研究・社会連携部の主な業務
P4	OUS フォーラム
P5	新学部「情報理工学部」の紹介
P6	新学部「生命科学部」の紹介
P7	新コース「アクティブラーナーズコース」の紹介
P8～10	地域貢献事例
P11～12	研究シーズ紹介
P13	共同研究等手続き

学校法人 加計学園
岡山理科大学
www.ous.ac.jp

発行日 2022年10月1日

「選ばれる大学」を目指して

学長　**平野 博之**

本冊子でお伝えする産学官金連携とは、換言すれば、本学の目指す方向ともいえます。本学はこれを「選ばれる大学」に据えています。教育と研究を一体不可分とする立場を堅持し、学生が成長を実感できる場として本学が評価をいただくために、学生、地域、社会から選ばれる大学を目指してまいります。そこで具体的に、地域から選ばれるための課題解決に向けた連携、社会から選ばれるための社会的関心の高いテーマの研究遂行、学生から選ばれるための教育体制について紹介させていただきます。

こうした内容のベースにあるのが岡山理科大学ビジョン2026にあたります。当初策定した、研究推進、国際性、地域貢献などの5つの柱に、新たにブランド形成、DX 推進を追加し、今年度からは、後半5年間の第II 期アクションプランを遂行します。

さて、新型コロナウイルス感染症が世界に与えている影響は甚大で計り知れません。いまだウイズコロナを脱することができませんが、そう遠くない先にあるアフターコロナのニューノーマル社会を考えると、DX による不連続な変化が起こることは想像に難くありません。とくに高等教育そのものは、これまで以上に多くの人々に開かれたものとなり、いつでも、誰でも、どこからでも自らの選択により学べるユニバーサル・アクセスになるとされています。また、高等教育機関と実社会双方の努力により、社会人が必要に応じて高等教育機関で学習でき、その成果をもって更に社会で活躍できる往復型社会への転換が加速するとされています。

今後、ユニバーサル・アクセスとなる高等教育の学びを、来たる往復型社会において実現できるよう、連携の一層の高度化を図り「選ばれる大学」となるよう邁進してまいります。

大学の概要

大学名称：岡山理科大学
設置母体：学校法人加計学園
大学設立：1964 年 4 月
所 在 地：岡山市北区理大町 1-1
教 員 数：　416 名（2022 年 5 月現在）
学 生 数：7,014 名（2022 年 5 月現在）

岡山理科大学

建学の理念

ひとりひとりの若人が持つ能力を最大限に引き出し、技術者として、社会人として、社会に貢献できる人材を養成する

理学部
応用数学科
基礎理学科
物理学科
化学科
動物学科
臨床生命科学科

工学部
機械システム工学科
電気電子システム学科
情報工学科
応用化学科
建築学科
生命医療工学科

情報理工学部
情報理工学科

生命科学部
生物科学科

生物地球学部
生物地球学科

教育学部
初等教育学科
中等教育学科

経営学部
経営学科
アクティブラーナーズコース

獣医学部
獣医学科
獣医保健看護学科

大学院

理学研究科
修士課程7専攻
博士課程（後期）2専攻

工学研究科
修士課程7専攻
博士課程（後期）1専攻

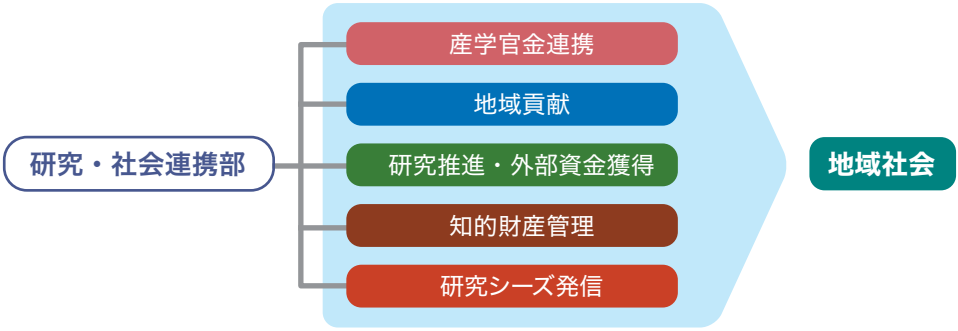
総合情報研究科
修士課程2専攻
博士課程（後期）1専攻

生物地球科学研究科
修士課程 1 専攻

マネジメント研究科
修士課程 1 専攻

研究・社会連携部

大学は教育と研究という基幹的使命に加え、これらの成果を広く社会に還元する第三の使命として社会貢献があります。研究・社会連携部は研究を推進すると共に、開かれた大学として地方公共団体、産業界等と連携して地域社会の発展に寄与することを目指しています。



研究・社会連携部の主な業務

産学官金連携

連携協定

「地域の課題解決や活性化に貢献し、地域と共に発展する大学」を実現するため、県内外の産学官金の様々な機関と連携協定を締結し、協力体制を構築しています。国内のみならず、海外における研究拠点やネットワークの形成を目的として、モンゴルをはじめタイやフィリピンの高等教育機関とも連携協定を締結しています。

広島県獣医師会との連携協定

【連携協定機関】

国内

浅口市岡山天文博物館、今治市、今治明徳短期大学、
海の中道海浜公園動物の森、愛媛県今治警察署、(公社)愛媛県獣医師会、
(公財)愛媛県動物園協会、(大)愛媛大学、
(大)愛媛大学大学院医学系研究科・愛媛県立衛生研究所・(公大)愛媛県立医療技術大学、
大牟田市動物園、岡山県高等学校工業教育協会、岡山県ゴルフ協会、岡山県生涯学習センター、
(大)岡山県立大学、岡山市、岡山商工会議所、おかやま信用金庫、(大)岡山大学、
(公社)おかやま観光コンベンション協会、(公財)沖縄子どもの国、香川県農業共済組合、
(公社)香川県獣医師会、(大)鹿児島大学共同獣医学部、(公財)吉備路文学館、
吉備中央町・(特非)吉備高原サラブリトレーニング、(大)京都大学化学研究所、倉敷市、
倉敷市・ふなおワイナリー(有)、群馬サファリパーク、(公社)高知県獣医師会、
(公財)高知県のいち動物公園協会、高知県農業共済組合、国土交通省中国地方整備局、
西海国立公園九十九島動植物園、玉島信用金庫、中小企業金融公庫岡山支店(現 日本政策金融公庫)、
国立高専機構津山工業高等専門学校、tetta(株)・新見市、(公社)徳島県獣医師会、徳島県農業共済組合、
(地独)天王寺動物園、(株)東北サファリパーク、(株)トマト銀行、ナカシマホールディングス(株)、
奈義町教育委員会、名護自然動植物公園(株)、(公社)日本技術士会中国本部岡山県支部、
(特非)日本ネットワークセキュリティー協会、バイオパーク(株)、姫路セントラルパーク、
広島市安佐動物公園、(公社)広島県獣医師会、福山市立動物園、富士自然動物公園、
(有)屋久島野外活動総合センター

国外

タイ王国ワライラック大学、フィリピン共和国マプア大学、モンゴル科学アカデミー古生物学研究センター、
モンゴル国ナラン学校、モンゴル国立教育大学、モンゴル生命科学大学

地域貢献

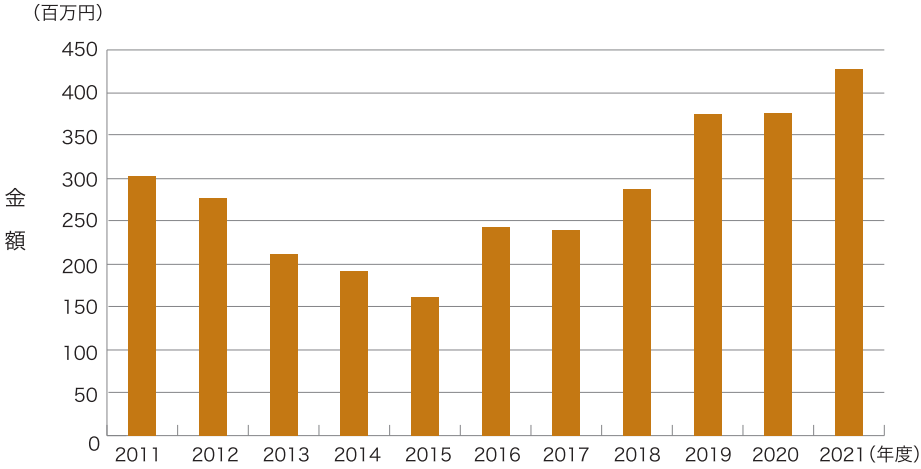
イベントでの技術相談対応

地域の研究拠点として、活力ある地域づくりに貢献すべく、地域の産学官金連携活動に積極的に取り組んでいます。岡山県内の産学官金の主要な機関で構成された「岡山・産学官連携推進会議」に参画し、様々な協働事業、イベントに参加するとともに、参画機関を通じた技術相談等にも対応しています。

また、令和元年度に設立された「岡山県 企業と大学との共同研究センター」の活動に協力し、県内大学間のコーディネータによる情報交換を通じて、地域企業の技術力向上の一端を担っています。

研究推進・外部資金獲得

科学研究費助成事業、各種財団の研究助成事業、国や自治体の公的資金、各種機関との受託研究／共同研究など、外部資金獲得のための説明会開催や情報収集・提供を行っています。



外部資金の獲得状況

知的財産管理

「研究を通じた知財の創造」、「生み出された知財の権利化」、「知財活用による研究投資の回収」という知的創造サイクルの活性化に向け、教員や学生向けセミナー開催のほか、知的財産の権利化・管理・活用に向けた取り組みを行っています。

知的財産権セミナー

研究シーズ発信

本学独自のフォーラムの開催や、研究シーズ集である「OUS 研究者ナビゲーター」の発行、ホームページへの掲載、さらに JST（国立研究開発法人科学技術振興機構）が主催する大学見本市や新技術説明会に加え、関連の各種展示会に出展するなど、積極的な発信に努めています。

NEW 環境展 2022　出展風景

産学官金連携の機会創出の場「OUS フォーラム」

OUS フォーラムとは

岡山理科大学ではホットな研究シーズを発信し、産業界との交流を活発にするとともに、企業のニーズをタイムリーに把握するため、毎年 11 月に「OUS フォーラムー基礎から応用・未来技術への出会いと対話ー」を開催しています。産学官連携が叫ばれ始めた 2001 年度から本学がいち早く始め、今年度が 22 回目の開催になります。

このフォーラムは、大学の研究者と直接対話していただき、シーズとニーズの出会いから未来を切り開く技術へと繋げる、産学官金連携の機会創出の場となっています。

OUS フォーラム 2022 の開催

新型コロナウィルス感染の広がりを受け、2020 年度、2021 年度と2年連続で WEB 開催といたしました。本年度は、コロナ感染対策に配慮した上で学外会場にて開催します。併せて、県外からのアクセスを期待し、オンラインでの発信も行います。会場では、特別記念講演、ポスターセッション、口頭プレゼンテーションの3部構成で行います。

参加申し込み方法は

会場開催及びオンライン発信とも、どなたでも参加もしくは閲覧いただけます。研究・社会連携部のホームページに掲載している OUS フォーラムの特別サイトから申込いただくか、または直接お問い合わせください。

（OUSフォーラム 2022 サイト）

http://renkei.office.ous.ac.jp/forum ▶

会場でのポスター発表風景（2019 年）

【問い合わせ先】
岡山理科大学　研究・社会連携部
E-mail:renkei@ous.ac.jp
TEL:086-256-9731

※ OUS フォーラムに関する最新情報は HP 上でご確認ください

主催・共催 岡山理科大学、倉敷芸術科学大学、千葉科学大学

後　援（2021年実績）
（国研）科学技術振興機構、中国経済産業局、国土交通省中国地方整備局、岡山県、岡山県教育委員会、岡山市教育委員会、（公財）岡山県産業振興財団、岡山県市長会、岡山県町村会、岡山市、倉敷市、玉野市、岡山県経済団体連絡協議会、岡山県商工会議所連合会、岡山県商工会連合会、岡山県経営者協会、（一社）岡山経済同友会、岡山県中小企業団体中央会、岡山県中小企業家同友会、（一社）岡山県発明協会、（一社）システムエンジニアリング岡山、（一社）中国地域ニュービジネス協議会、（公社）山陽技術振興会、（株）日本政策金融公庫、おかやま信用金庫、（株）トマト銀行、（株）山陽新聞社、岡山県工業技術センター、岡山リサーチパークインキュベーションセンター、岡山県医用工学研究会

新学部「情報理工学部」の紹介

「情報技術と機械制御技術の融合を目指して」

情報理工学部長　劉 渤江

岡山理科大学では、情報技術と機械制御技術の融合を目指し、楽しいものから役に立つものまで総合的に学ぶ環境を作り、Society5.0が目指す社会に貢献できる人材を養成するという考え方に基づいて、情報系の総合情報学部情報科学科とロボット系の工学部知能機械工学科を統合・拡大して、2022年度より情報理工学部情報理工学科を設立しました。1学部1学科で、教員は29名、入学定員は210名です。

情報理工学部は、「情報技術を核として人間機能の拡張を教育研究する」を基本コンセプトとし、「情報技術を核として、数学やアルゴリズムといった理学的な知識・技能と、ものづくりのための機械の工学的な知識・技能を身につけ、情報化が進む社会の中で、問題発見・解決能力を養い、高めて行くこと」を教育上の目的とします。この教育目的を達成するため、コンピュータサイエンスコース、AI・データサイエンスコース、デジタルゲーム・メディアコース、AIロボティクスコース、メカトロニクスコースの5つの専門コースを設けており、入学者全員に基礎的な情報技術と機械制御技術の習得を課し、各学生が異なる専門分野を選択したとしても、他分野の学生と容易に連携や協働ができるよう、幅広く専門科目を履修することができます。

これからは、学部学科のコンセプトを的確に受験生に伝え、学修意欲の高い入学生を迎えることを目指します。さらに、学部学科の教育・研究活動が充実するよう努め、学生にとって魅力のある教育機関になるよう努力していく所存です。

今後も皆様からのご指導ならびにご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

新学部「生命科学部」の紹介

「生物の力で暮らしを豊かに／地球と人間の共生を科学する」

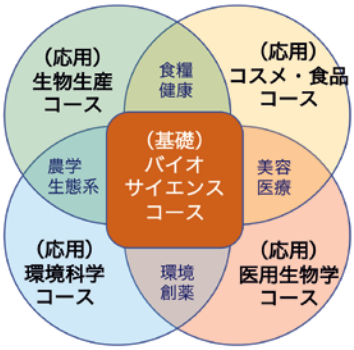
生命科学部長　池田 正五

2022年度より、生命科学部は岡山理科大学で積み重ねてきた生物学やバイオテクノロジーの研究分野を集結させた「生命科学の教育・研究の統合拠点」として発足しました。生命科学部は生物科学科のみの1学部1学科ですが、基礎分野1つと相互に関連し合った4つの応用分野をコースとして設けています。

バイオサイエンスコースは、生命現象を遺伝子やタンパク質、細胞レベルで理解するための基礎分野です。動物、植物、酵母、粘菌などを用いて、ゲノム情報に基づく最先端の研究に取り組んでいます。**生物生産コース**では、植物（農作物）や微生物（発酵）の力を利用して食糧増産につなげるなど、産業に直結する生物学を教育・研究しています。淡水魚と海水魚が同じ水槽で飼育できる好適環境水による養殖もここで行います。**コスメ・食品コース**は、化粧品・食品など体の内外から美と健康をサポートするサイエンスを研究しています。皮膚科学や食品科学を学び、健康長寿の実現へ貢献します。**環境科学コース**では、生態系のメカニズムや人間生活による環境への影響を学び、環境に負荷をかけない物質生産や医薬品合成についても教育・研究します。**医用生物学コース**は、iPS細胞などを利用した再生医療、遺伝子診断・治療、ナノテクノロジーの医用応用といった最先端医療技術の教育・研究に取り組みます。

生命科学部では、基礎研究だけではなく、産業界へのシーズの提供や共同研究での新製品・新技術の開発によって地域への貢献を目指しておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

生命科学部 生物科学科 コース間の関連図



新コース「アクティブラーナーズコース」の紹介

「自分にしかなれない・自分だけの将来に近づくための教育」

アクティブラーナーズコース長　重松 利信

本年４月、学部と並列したコースとして、アクティブラーナーズコースが新設されました。

このコースは、日本初ともいえる最新の教育システムを整えたコースで、本学が第Ⅱ期アクションプランで掲げている「学修者本位の教育」（現在、日本の大学教育が進むべき方向と言われています）を教育理念の中心に据えたコースです。

得意なことや社会での活躍の仕方は一人ひとり異なります。そこで本コースでは、自分にあった科目や自分を伸ばせる科目を、岡山キャンパスの教育コンテンツの中から学部や学科の枠を超えて広く選び、自分だけのカリキュラムを作り、それに沿って「自分を磨き、得意を伸ばし、将来の自分を手に入れる」そして「社会の変化に柔軟に対応して、組織や社会に変革をもたらす人材へと成長する」そんな人材育成を目指しています。それができるように、岡山キャンパスの全学部・全学科の科目を履修できるクロスカリキュラム型の教育システムの導入と、学生一人ひとりに寄り添った伴走者的教育体制（チームチュータ制）を整備しました。

本年度、アクティブラーナーズコースの第一期生25名を迎えました。彼らは我々教職員の期待を一身に受け、大学での学びに漕ぎ出しています。彼らがどのように成長していくか、ともに学ぶ仲間とどんな化学変化をしていくか、皆様にもご関心を寄せていただき、温かい目で見守っていただけたら幸いに存じます。

近い将来、本学のアクティブラーナーズコースの卒業生が、これまでなかったような発想で、大きな社会変革をもたらすかもしれません。

授業風景

[地域貢献事例]

「家族で化石を楽しむ時間」を贈る地域貢献
ー教育効果の高い化石レプリカ作りイベントの開発ー

岡山理科大学恐竜学博物館長　**石垣 忍**

デスティネーションキャンペーン（以下DCと略）は、地域を決めて行う大型観光キャンペーンで、JRグループと自治体、観光業者や旅行会社が一体となって行われます。今年の夏季（7-9月期）のDC対象地域は岡山県でした。岡山で観光キャンペーンと言えば倉敷美観地区や瀬戸大橋、後楽園、蒜山などを思い浮かべますが、現在のDCは、地域の特別な体験やイベント、新たな観光資源をアピールする場にもなっています。2021年に岡山理科大学恐竜学博物館ならではの「体験」をDCに提供できないかというお話がおかやま観光コンベンション協会からありました。DCの趣旨に合う当館ならではの企画として、岡山とモンゴルの共同隊が発掘した恐竜の歯や爪を、発掘時の逸話や科学的解説を聞いたうえで、そのレプリカを作ることと、研究者による博物館の案内を組み合わせる案を考えました。

2021年夏のプレキャンペーンで五日間実施したところ、大変好評でした。それで今年は受け入れ人数を300人とし、化石レプリカを自宅で何個も作るための「型」を持ち帰れるように手法を開発しました。定員の2.5倍の申込がある中、抽選で参加者を決めて実施。安価な材料費で恐竜の歯と爪、三葉虫、アンモナイトを確実かつ簡単に持ち帰ることができ、さらに家族で製作を楽しめるこの手法は大好評でした。また、それぞれの化石について語れるエピソードを提供したことも好評でした。今後、このレプリカづくり体験を教育活動として確立し、地域の教育機関やイベントと協力して、科学普及と地域貢献に役立てたいと考えています。

愛顔（えがお）の生きもの係教室用教材作成
「未来の大人たちと動物との共生社会の実現を！」

獣医学部 獣医学科 教授　**岩田 惠理**

獣医学部では、愛媛県今治保健所による「地域協働動物共生社会づくり事業」に教育委員会、今治明徳短期大学と共に参画しています。本学部の動物愛好会ZOI（ゾーイ）の学生たちが、今治地域の小学校高学年を対象とした「愛顔の生きもの係教室」の教材作成及び授業の実施を担当します。授業は二本立てで、一つはペットの適正飼養、もう一つは野良猫への無責任な餌やりに関するもので、紙芝居やブラックシアターを用いての問題提起から、クイズをはさんでパワーポイントを用いた解説、そしてグループワークと、参加者の気づきを促す工夫がされています。8月11日に第１回目の授業を開催しました。学生たちはとても緊張していましたが、参加者の反応に手ごたえを感じた様子です。

８月 11 日に獣医学部で開催された教室の様子

農林水産 DX セミナー
～スマホで見る!!　Bluetooth 送信式温度・湿度計の製作～

情報理工学部 情報理工学科 教授　**赤木 徹也**
教授　**藤本 真作**

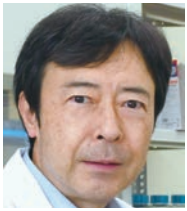
今夏、情報理工学科ものづくり実習室を会場に、岡山県農林水産総合センターと連携し農林水産業従事者向けの実践的なDXセミナーを開催しました。セミナーでは農作物管理の基礎となる温度・湿度について、Bluetooth通信を使ってスマホに送信するリアルタイムモニタを製作しました。これらの技術は情報系の技術者にとっては基本的なことですが、農業従事者の方が習得することで、農業のDXに必要なシステムを比較的安価に構築することができます。セミナーは参加者に大好評で、慣れない「はんだ付け」から、プログラムの書き込み、通信距離を測る実験など、楽しそうに取り組まれていました。

今回取り組んだ温度・湿度モニター製作の技術を応用すれば、土中水分やCO_2濃度などの計測も可能になります。今回の取組が、農林水産業におけるDX推進の契機になることを願いセミナーを終了しました。

「学生目線のアイデアや企画で地域を元気にする」

経営学部 経営学科 教授　**黒田 正博**

３年次のPBL型講義「イノベーション・ラボ」で大藪亮教授とゼミ学生と共に、昨年度から岡山県北部の真庭市二川地域の地域活性化に取り組み、「地域に飛び出せ大学生！おかやま元気！集落研究・交流事業」に採択されています。昨年度の課題は、ふるいち二川マンガ館を起爆剤とした地域活性化でした。集客のためのターゲティングと情報発信の方法を研究し、イベント開催ではこれらも利用して真庭市HPやSNS等で情報発信をしました。また、SDGsを意識したエコバッグ作成やスタンプラリー等を学生が企画し、多くの参加者を集めました。これらの学生のアイデアや企画は、現在も施設の主要イベントとなっています。更に、今年度はマンガ館と併設する二川みらいづくりセンターを利用したオンラインによる学童保育に取り組んでいます。



「理大発見酵母で日本酒醸造」

ワイン発酵科学センター長　**金子 明浩**

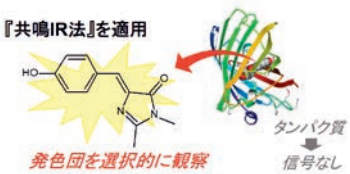
自然界には多くの酵母が棲息していますが、産業利用されているのはごく一部にすぎません。そこで、ワイン発酵科学センターでは、岡山県内のブドウ、桃、パクチー、黄ニラ、ハッカ、雄町米、備前カボチャ等を分離源として、酒造りに向いた野生酵母の分離を試みています。約500の菌株の中から、アルコール耐性、アルコール発酵力のある酵母の分離を行い、AK1701酵母Saccharomyces cerevisiaeをブドウ“マスカット・オブ・アレキサンドリア”から見出しました。この分離酵母は優れたアルコール発酵力に加えて吟醸香の成分も多く生産することが判りました。今回、嘉美心酒造株式会社（浅口市）と共同開発でフルーティーな香りの高い“純米吟醸酒「神心」”が製品化されました。

[研究シーズ紹介]

「蛍光タンパク質発色団部位を選択的に赤外分光計測する」

理学部 化学科 講師　**高橋 広奈**

水溶液中で蛍光タンパク質発色団部位だけを選択的に赤外分光計測することで、発色団部位の局所的な構造解析に取り組んでいます。具体的には私たちの開発した、過渡蛍光検出赤外分光法と顕微鏡技術を組み合わせた『共鳴IR法』により、⑴振動数から発色団部位の分子構造を同定、⑵信号増強されるバンドから電子励起状態における構造変化を解明、⑶バンドごとの振動緩和速度から周囲のタンパク質との相互作用を観察、を行っています。水溶液中での赤外分光計測は従来法では困難であり、得られたデータから発色団部位の分子構造、電子状態および周囲のタンパク質との相互作用が、吸収・発光特性に与える影響を解明できると期待します。将来的には生体内でのマーカーとして役立つ新規蛍光タンパク質の設計・開発へのフィードバックを目指しています。

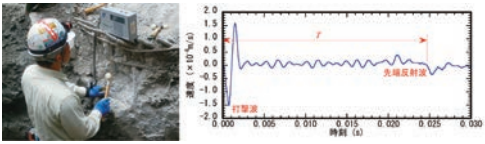


「既存杭の再利用に向けて」

工学部 建築学科 教授　**堀田 洋之**

建築物の建て替え工事において、工費・工期を削減し、環境負荷を低減する目的から、既存建物の杭を新しい建物の杭として再利用しようという機運が近年高まりつつあります。しかし現実には既存杭の再利用はほとんど行われていません。理由の一つとして、既存杭の品質・性能が不明確で、確認するのが困難であることが挙げられます。

私たちは衝撃弾性波試験という試験法を応用して、杭の頭部を打撃して杭体を伝播する弾性波を測定し、地盤の影響による伝播速度の変化を数値解析により考慮することで、杭の長さを精度よく評価できることを明らかにしました。また、杭体に損傷のある場合の検知方法や、損傷の程度を推定する方法の研究を行っています。

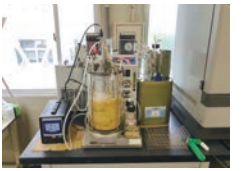


衝撃弾性波試験の実施状況と測定波形の例

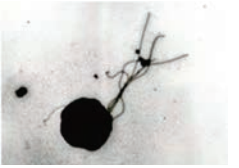
「微生物で世界の課題を解決！」

工学部 応用化学科 教授　**古賀 雄一**

地球上には100℃の熱水が湧き出す火山性の高温環境のような極限環境があり、これらの環境で生育できる「極限環境微生物」というものがいます。これらの生物が作る酵素には、極限環境に適応した（耐熱性など）特性や、新しい酵素機能が見出されています。例えば、火山性の熱水から単離された超好熱菌由来のある酵素は、100℃でも高い酵素活性を示し、従来分解困難で感染症の原因であったタンパク質（異常プリオンタンパク質やウイルス）を分子レベルで不活化することができるのです。また、高温発酵する堆肥から見つかったLC-cutinaseという酵素は、社会問題となっているポリエチレンテレフタラート（PET）の分解が可能です。このような新しい酵素を探索し、酵素を社会に役立てる技術として開発する研究を行っています。



微生物培養装置

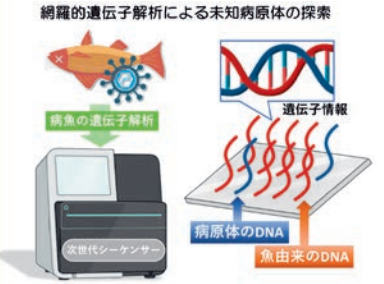


超好熱菌 *Thermococcus kodakarensis*

「養殖魚介類を未知病原体から守る」

獣医学部 獣医学科 准教授　**米加田 徹**

天然の水産資源の減少を受け、国は「養殖業成長産業化総合戦略」を策定し、新技術開発や輸出促進など養殖業の本格的な振興に取り組んでいます。一方で、養殖場ではしばしば疾病が発生し、産業の発展に歯止めをかけています。中には「未知の病原体」が関与している場合もあります。このような病原体を一早く見つけるため、網羅的遺伝子解析技術や病原体分離培養技術の開発に取り組んでいます。病原体を捉えることで、その疾病がどのように広がっているのかを調べることができます。そのような疫学情報は健康診断やワクチン開発といった積極的な防除対策にも繋がります。養殖魚介類の疾病問題を改善し、養殖業の発展に貢献したいと考えています。



共同研究等手続き

共同研究

共通の課題について、役割分担を決めて共同で研究を推進するものです。

受託研究

委託を受け、本学教員が研究を行いその成果を委託者に報告します。

研究助成

研究の奨励・成果などに対する助成を受け付ける制度です。

お問い合わせ

岡山理科大学　研究・社会連携部

〒700-0005 岡山市北区理大町 1-1

Tel. 086-256-9731　Fax. 086-256-9732

URL http://renkei.office.ous.ac.jp

E-mail renkei@ous.ac.jp

発行：研究・社会連携部
〒700-0005 岡山市北区理大町 1-1
Tel. 086-256-9731
Fax. 086-256-9732
URL http://renkei.office.ous.ac.jp
E-mail renkei@ous.ac.jp

©2022 Okayama University of Science

LOVE&SCIENCE.

すべてはキミの未来のために。

SCIENCE is here, the future is here.
岡山理科大学
OKAYAMA UNIVERSITY OF SCIENCE